

環境学の

授業拝見!

理学、工学、人文社会科学、異なる専門領域の学生がともに学ぶ環境学研究科ならではの授業です。



【今回の授業】サンゴ礁フィールド実習 地球環境科学専攻 物質循環科学講座 山崎 敦子 講師

名古屋から直線距離にして約1000km。奄美群島の一つ、人口6200人の喜界島。この小さな南の島が今回の授業のフィールドです。その理由は、この島が約10万年前にサンゴ礁の隆起により形成され、島の表面がサンゴの化石で覆われており、今も海にはサンゴ礁の生態系が息づいている「サンゴの島」だからです。「サンゴ礁のシステムを理解し、10万年間の地球環境の変動と歴史を感じてほしい」と山崎先生。専攻を問わず、環境学研究科の学生を対象に行われます。

授業は2泊3日。サンゴについての基礎的な講義の後、海洋実習。環境によるサンゴの分布や成長の違いを、シュノーケリングで海に入って観察、計測します。2日目は喜界島の成り立ちを表す露頭や、海水準の変動でできたサンゴ礁段丘、サンゴ礁性石灰岩の湧水地を見学。サンゴと密接に結びついた集落や人とのかわりを地域の人との対話を交えながら、見ていきます。そして最終日はワークショップ。実習の調査結果を踏まえて、将来の地球環境の展望についてプレゼンテーションを行います。実はこの授業、現地で九州大学、北海道大学と合流するので、実習の班は年齢も専攻もさまざまな人と組むことに。「多様な意見を聞いて、場を体験して、環境について自分の言葉で語れるようになってほしい。」と山崎先生。

南の海で、自然とそれを取り巻く文化を体感する貴重な3日間。環境学研究科の多様な分野の学生が広く参加して、さまざまな視点から地球環境を議論できればと願っています。



小出 胤樹さん
ニいで かずき

地球環境科学専攻
地球惑星系生態学講座
博士前期課程1年

この授業の最大の魅力は、喜界島の宝石のように美しいサンゴの海で実際に泳ぎ、自然を全身で体感できる点だと思います。普段は濁った海しか見ていない自分にとって、透明度の高い海と多様なサンゴの景観はとても感動的でした。実習ではサンゴ礁だけでなく、島各所の露頭や地形、集落も巡りますが、それらすべてがサンゴに由来する地質の上に成り立っていることを学びました。地質と自然、そして人の暮らしが密接につながる、地質的に非常にユニークな喜界島を通して、島そのものと島人の営みを深く感じる事ができた授業でした。

